

EMT981 再生系の再構成(13)

－ハイドンを聴く(4)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から TruPhase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

今回、Autograph MINI での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

Hyperion CDA68160

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 54 No.1～No.3

弦楽四重奏曲作品 55 No.1～No.3

ロンドンハイドンカルテット

CHANDOS CHAN 10971(2)

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 64 No.1～No.6

ドーリック弦楽四重奏団

3. EMT981 の試聴結果

上記のいずれも演奏会で求めてきたものです。

ロンドンハイドンカルテット盤は、2015 年収録の 2 枚組のもので、ガット弦を使用して演奏しており、ヴィブラートを効かせない落ち着いた音色でゆったりした演奏であり、演奏会の印象が蘇ってきました。

ドーリック弦楽四重奏団盤は、2017 年収録の 2 枚組のもので、ワイドレンジで爽やかな音色で小気味よく切れの良い演奏であり、これも演奏会の印象が蘇ってきました。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤ともデジタル臭さを感じないワイドレンジで切れの良い音が楽しめます。

以上